



上／飯田地区の高台から眺めた風景
右／高木さんの自宅前で、ディスタンスを取りながら皆さんとおしゃべり。右から高木敬司さんと妻の康子さん、上田さん



ちよつとそこまで

わがまち散歩

道すがら、心通わす人がいる
古里の温もりに包まれながら
あちらこちら、わがまち散歩

まだまだ寒さは募りますが、人の温かさに触れると、春の日のような心地よさを覚えます。飯田・本土山・土山地区で、ほのぼのとした出会いがありました。

飯田・本土山
土山編

飯田山に抱かれて

飯田山の裾野に広がる飯田地区の段々畑は、美しくあぜ切りが施されています。高台から見下ろす眺めは清々しく、振り向けば飯田山が見守るようにそびえ立っています。

飯田地区には「新屋敷の堤」をはじめ、いくつもの堤が点在しています。山の伏流水や雨水を溜め、昔から稲作の用水として使われてきました。「田植えも稲刈りも平地と違

って狭くてやおいかんばつてん、先祖代々守ってきた大切な土地です」と話すのは高木敬司さん(70)です。

メロンを栽培していた高木さんは勇退後、近所の上田勝男さん(71)たちとシイタケ栽培を楽しんでいるそうです。冬越しの春のシイタケは、もいですぐのものを焼いて塩を付けて食べるのが一番おいしいとのこと。近所さんにもお裾分けされます。「なーんかせんと暇でしょんななかもん」と笑う高木さんです

上田さんが栽培しているシイタケ。これから大きく育ちます



が、上小池まちづくり協議会代表を務めるなど、地域のために尽力する忙しい日々です。

「飯田山には清水が湧き出て、私たちはその水の恩恵を受けて暮らしてきたとです。山頂で水が湧き出るなんて珍しかでしょ。ばつてん、今は水量が少なくなつてね」と高木さんの妻の康子さん(68)が残念がります。

冬の日だまりの中で、皆さんとしばし笑顔で立ち話。心がすっかりぬくもりました。